

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3992600027		
法人名	有限会社 沙羅		
事業所名	グループホームしらゆり		
所在地	幡多郡黒潮町下田の口2153		
自己評価作成日	平成23年9月9日	評価結果 市町村受理日	平成23年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームしらゆりの施設は、地域と小山を挟んだ場所にあるが、地域の住民として受け入れてもらっている。秋祭りには、お神輿が来てくれたり、老人クラブとの交流や地域の行事にも参加している。職員のチームワークも良く、利用者一人ひとりを大切に笑顔で接し、家族と職員が連携し合って共に支えていけるような関係ができている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokouhyou.jp/kaijosip/infomationPublic.do?JGD=3992600027&SCD=320&PCD=39
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成23年10月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田畑に囲まれた事業所は、建物全体に木をふんだんに使い、温かみのある居住空間を実現している。近くに住宅が無いため、地域とのつきあいには不利な環境下にあるものの、事業所は一斉清掃や祭り等の地域の行事に積極的に参加している。また、事業所の行事に地域住民を招待したり、少し離れた小学校の生徒が自主的にテーマを持って事業所を訪れてくれたり、地域の農家が収穫した農作物をおすそ分けしてくれるなど、地域との交流は盛んである。サービス面においては、「笑顔で家族のように」という理念を尊重して支援にあたり、協力病院の往診や訪問看護も定期的に受けるなど、利用者が安心して生活できる体制が整っている。職員は、利用者中心の生活支援の意識を持っており、利用者から選ばれる事業所を目指して努力している。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で意見を出し合って作成した理念を年1回程度見直しを行っている。日々意識できるように目に付く場所へ掲示して、管理者・職員が共有して実践につなげている。	事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示して、常に職員の目に付くようにしている。理念にある「地域交流」や「家族のような関わり」を意識し、日々確認し合って業務に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動(一斉清掃・避難訓練・秋祭り)などへの参加やホームへの行事への招待、また近くの小学生の訪問や運動会見物などで交流を行っている。	町内会に加入し、地域の清掃活動や祭りに参加している。事業所の行事にも地区の住民が参加しており、小学校の生徒の定期的な訪問や農家から野菜のおすそわけがあるなど、地域との良好な関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夕涼み会には地域の老人クラブの方達を招待し、入所者の方と関わる事で認知症の理解を深めている。小学生との交流では、グループホームや利用者さんについての質問などの意見交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設の小規模多機能と合同で行っている。行事や報告にとどまらず、困難事例などを報告し、意見をもらってサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、住民代表、家族、行政担当者等が参加し、積極的に意見交換をして、事業所の運営等に活かしている。会議の議事録は事業所内に掲示し、来訪者が見ることが出来るようにするとともに、行政にも送付している。	議事録が、会議の内容を一字一句そのまま起こしたのになっているので、要点を記載することにより、閲覧者等が見やすくするとともに、事業所の事務の簡素化も図ることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険系の職員や包括支援センター職員に解らないことや困った事があれば相談し、一緒に考えてもらっている。日頃から、何でも相談や報告ができる関係性である。	町内で開催されるケアマネージャーの連絡会に積極的に参加するなど、日頃から町の担当者とは行き来があり、些細なことでも気軽に相談出来る関係性ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の研修会に毎年参加し、学んだことはホーム内の勉強会で報告している。ホーム内でも委員会を作り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は、研修会や事業所内の勉強会で、身体拘束をしないケアの必要性を認識しており、日中は施錠を行わず、また、家族と相談して、転落防止のためベッドから畳に布団を敷くように変更するなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修へ参加するとともにホーム内での勉強会で、虐待は身体的だけではないことも職員が話し合い周知できるように努めている。また、委員会が中心になり防止に努めているが、虐待を感じた時には地域包括支援センター（行政）へ相談し対応していく。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度の研修会は参加出来ていないが、以前参加した職員が中心となり、勉強会の年間計画のひとつのテーマとなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に事業所見学や制度について説明し、自宅訪問時には重要事項について説明し、疑問や不安な点を尋ね、理解と納得をしてもらえるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	懇談会には第三者委員についての説明、ご意見箱の設置について話をしている。日頃から何でも気軽に言える関係作りに努めている。	年1回家族会を開催し、家族だけで話しあえる機会を作っている。また、第三者委員の存在についても説明し、事業所内に設置している意見箱も職員の目に付かない場所に置くなど、意見を出し易くする心配りをしている。出てきた意見はスタッフで検討し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会や勉強会で職員の意見や提案を聞いたり、みんなで学ぶ機会を設けている。日常気付いたことを話し合えるようにしている。	職員の意見や提案は、スタッフ会や週2回開催しているカンファレンスで話し合っている。年齢や経験年数にとらわれることなく業務内容等で気のついたことを発言してもらい、可能なことから順次対応し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見や改善などの希望があれば、管理者会（2ヶ月に1回）の議題として話し合い、代表者は前向きに検討し、働き甲斐のある職場になるように努めてくれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が研修を受けれるように取り組み、未受講の研修に参加して学んだ事を勉強会にて報告し、質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年2回の法人内外の同業者との勉強会を行い、それぞれ議題についての報告や意見交換を行っている。また同系列のリーダー研修を各事業所で担当を変わりながら勉強会を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に自宅で本人や家族と面談し、不安なことや要望などについてわかりやすく説明して安心してもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に施設見学や自宅へ訪問して家族と面談し、不安なことや要望などについて時間をかけて聴くことで、安心してもらえるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向や状況を十分に聞いて、必要に応じて他のサービスについても説明し、対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴を把握するとともに、それぞれと話をする時間を持つように心がけ、会話や一緒に何かをすることで、関係を築けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員が連携し合って、利用者の生活を共に支えあい、利用者の痛みや喜びを家族と共に受け止めている。また、遠方の家族には、お便りや電話で報告や相談が出来ていて疎遠にならないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者がこれまで生活してきた地域の場所や店などへ行ったり、希望を聞きながらドライブに出かけて知人に会ったり、ホームに来てもらうなどしている。	利用者の希望に沿って、馴染みの美容院へ行ったり買い物に出掛け、また、友人や知人に事業所訪問を積極的に働き掛けるなど、馴染みの関係が継続出来るように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの関係ができていながらも、孤立しないように職員が間に入り、共通の話題を提供するなどして、関わり合えるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ変わった後も様子を伺いに行ったり、家族と会うと状態を聴くなどしている。また、本人が亡くなり解約された家族が立ち寄ってくれたり、入所希望の家族を連れて来てくれたりする。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で、職員が一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。困難な場合には何気なく出る言葉や行動を通じて利用者の思いを受け止めるように努めている。	利用者の思いや意向については毎日の会話を通じて把握するようにしている。意思疎通が困難な利用者についても、長年共に生活していることから、仕草や表情で思いや意向を把握できる良好な関係が築かれており、本人本位のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時に本人や家族からの会話の中から、生活歴や利用に至った経過を把握し、利用後も折に触れてこれまでの生活の状況をプライバシーに配慮しながら把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムや心身の状態を把握し、その人の有する力を日々の生活の中で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	小さな気付きでも話し合えるように、週2回ミニカンファレンスの時間を設けている。毎月のモニタリングや3ヶ月毎の計画の見直し時には、本人や家族の意向を伺いながら作成し、状態変化の時にはその都度話し合い計画を作成している。	カンファレンスの中で職員の意見を聞き、3か月ごとの見直し時に本人や家族の意向も聞いて、介護計画を作成している。設定した期間で確実に見直しており、内容は利用者ごとに現状に即したものとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践やその時々に関わりや気づきを個別のケースに記録して、カンファレンスで意見を出し合い介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関への援助、外出の支援など、その時々で柔軟に対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学生や老人クラブとの交流や夕涼み会では、青壮年部方がやぐら作りや太鼓を打って盛り上げてくれ、また秋祭りには、ホームの玄関前までお神輿が来てくれて楽しみや生活が広がっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を第一に考え、入所前からのかかりつけ医に継続して受診できるようにしている。大半の方が協力医療機関の受診を希望され、月2回の往診を受けている。またその時々で、家族の意向に沿って専門医へ受診できるようにしている。	利用者や家族が希望するかかりつけ医に受診している。受診は基本的に家族同伴で行っているが、状況に応じて職員も対応している。受診結果については報告を受け、情報の共有を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護があり、訪問時には健康チェック・職員からの状態報告や相談にアドバイスをしてくれている。急を要する時には、小規模多機能の看護職員に相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関から説明を受けたり、介護サマリーなどで情報を提供し、入院中は面会や家族からの情報を訪問看護師に説明したり、退院について家族や病院関係者と連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	面会時に本人や家族と話し合い、ホームでの終末を希望される方もいて、ホームで出来ることを説明し、利用者の状態に応じて主治医や家族・訪問看護師に報告し話し合っている。	重度化した場合や看取りについて指針を策定しており、事業所として出来る事と出来ない事を十分説明して同意を得ている。協力病院の往診を月2回、訪問看護を月4回受けており、緊急時でも直ぐに対応出来る体制も整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成している。ホーム内の勉強会の年間計画にも入れて、看護職員が中心になって行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行って、火災・自然災害・夜間の想定などで行っている。特に地震・津波の際の対応について、運営推進会議の議題に上げて話し合っている。	年2回、防災訓練を実施しているが、本年度は地域住民の参加は得られていない。避難場所、避難手順、消火器の設置場所等について、職員に周知しており、非常用食料についても消費期限を確認し、随時入れ替えている。	非常時には地域住民の協力が不可欠であり、安心して避難するためにも、継続した住民参加による避難訓練の実施を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所独自の言葉使いの心がけをつくり、職員はその意味を認識し、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応、個人情報について話し合っている。	利用者の人格やプライドを傷つけない言葉遣いを文書にして掲示し、職員は常に意識してケアに当たっている。トイレ誘導時には耳元で話しかけ、トイレのドアも確実に閉めるよう心掛けており、個人情報も関係者以外には口外しないよう徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、本人の思いや希望を引き出せるように職員から声掛けを行い、自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの利用者が、自分のペースで暮らせるように日常の生活リズムや習慣を把握しており、その人の状態に応じて柔軟な支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は本人の意向で決めており、馴染みの美容室でカットするなど、希望に沿ったおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の会話の中で好きな食べ物を把握しメニューに入れたり、新鮮な魚が入るとメニュー変更などしている。調理の下ごしらえや台拭き、下膳など本人の出来ることをしてもらい、入居者と職員が同じテーブルで一緒に楽しい食事ができるように努めている。	食事の献立は、収穫した野菜や頂き物などにより変更することもあるが、基本的に利用者の希望に基づき、1週間ごとに作成している。食事の時は、下ごしらえ、食器洗い、配膳などできることを利用者が手伝い、職員も一緒に食事をして、楽しく食事ができるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事ができるようにできるだけ多くの食材を使用し、水分補給についてはお茶・コーヒー・ジュースなど色々なものを提供している。食事や水分摂取量のチェック表を作成し、一日の摂取量が把握出来るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ケアの声掛けを行い、本人の力量に応じて、一部介助や全介助により行っている。毎週土曜日には、洗浄剤にて義歯洗浄を行って清潔に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助の必要な方の排泄のパターンの把握に努め、定期的に声掛けしトイレ誘導を行っている。オムツの方も日中は紙パンツを使用してトイレでの排泄を行っている。	チェック表で利用者ごとの排泄パターンを把握しており、日中は早めに誘導して、トイレでの排泄ができるように心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便が出来るように乳製品や繊維の多い食べ物を摂るように心掛けている。適度な運動や十分な水分摂取ができるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間の設定はなく、一人ひとりの意向を確認し希望の時間に入ってもらえるよう支援している。気の合う同士が入ることもあり、拒否がある時には、声掛けの工夫やタイミングを見ながら機嫌よく入ってもらうように努めている。	入浴時間は特に決めず、利用者が希望する日と時間に、毎日でも入浴できるように支援している。入浴を拒否する利用者にはタイミングを見計らい、また、利用者同士で声をかけてもらうなど、工夫して入浴できるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズムやその時々で状態でソファや和室で横になったり居室でゆっくり過されている。夜間の睡眠もそれぞれ習慣があり、無理強いすりことなく対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を各ケースにファイルし、職員は利用者ごとの薬の内容や副作用の把握に努め、マニュアルに沿って飲み忘れや誤薬防止を徹底している。日常の状態の変化時には、主治医へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事や出来ることを個人の力量に応じて役割が出来ている。面会時には家族と一緒に居室で過ごしたり、夕涼み会やお花見には、家族と一緒に食事をしながら過ごすことは楽しみごとになっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的にホームの周辺を散歩している。春と秋の気候の良い季節には、希望に沿ってドライブや職員と買物に行き、また、家族と一緒に外食に行ったりされている。	天気の良い日は毎日散歩に出かけ、買い物をした時は職員の買い出しに同行するなど、日常的に外出できるよう支援している。また、花見、みかん狩り、外食などの行事には車椅子使用の利用者も一緒に出かけ、戸外での時間を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のおこ遣いを自分で管理している利用者もいるが、事務所に預かっている方が多い。みかん狩りやぶどう狩りなどの外出時の支払いは、見守りの中で使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望があれば、その都度対応している。手紙の要望はないが、あれば支援していく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは明るく冬は暖かい日差しが注ぎ、夏は山からの涼しい風が入りゆったりと過ごすことができる。窓の外には、田園が広がり四季の変化を感じる事ができ、台所は対面式になって利用者の顔や表情を伺うことができる。	共用空間は南に面し、風通しが良く、明るく暖かい日差しが降り注いでいる。建物には木をふんだんに使い、季節感のある折り紙などの飾りつけを行い、畳のスペースも完備して、利用者がゆったりと気持ち良く過ごせる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファでくつろいだり和室で横になったり、併設の小規模多機能へ行って話をしたりしている。また居室で一人でテレビを観たり、それぞれの場所で思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談して、自宅で使い慣れたタンスや小物を使われている方がいる。レクで作ったカレンダーや写真を飾ったり、ご主人の位牌へ毎日お茶をお供えする方もおり、一人ひとりが居心地良く過ごせる様に工夫をしている。	利用者が使い慣れたタンスや小物を持ち込み、家族の写真や誕生日の寄せ書きを飾り、希望者には畳を敷いて布団で休めるようにするなど、穏やかな生活が維持できるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレには手摺り、脱衣場には手摺りやベンチを設置し、自分でゆっくり着脱が出来るようにしている。また、下駄箱の近くにベンチを置き、自分で履き替えが出来るようにしている。トイレには、わかりやすい表示をするなどの工夫をしている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない